

本送信票を含み 3 枚

令和 6 年 9 月 11 日

報道機関 各 位

佐渡市関連事業のお知らせ(プレスリリース)

日頃、佐渡市に関わる報道へのご協力ありがとうございます。

下記の事業を開催しますので、お知らせします。

記

タ イ ル	カタカリ舞踊劇 & プルリア・チョウ仮面舞踊公演を開催します
事 業 概 要	インド政府 ICCR 派遣の「カタカリ舞踊劇」及び「プルリア・チョウ仮面舞踊」公演
日 時	令和 6 年 9 月 21 日(土) 開場 18:00 開演 18:30
会 場	赤泊総合文化会館
特 記 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細は、添付のチラシをご覧ください。 ・入場無料(会場の都合により入場者は 200 名とします。) ・舞踊出演者のメイクの様子をご覧いただけます(要事前連絡) ・舞踊公演前日(9/20 午後)、赤泊総合文化会館でインド料理教室を開催します(要予約)
担 当	赤泊行政サービスセンター 担当者名 佐々木
連 絡 先	TEL0259-87-3111 FAX0259-87-3110



送信元：佐渡市企画部秘書広報課

広報広聴係

T e l : 0259-63-4679

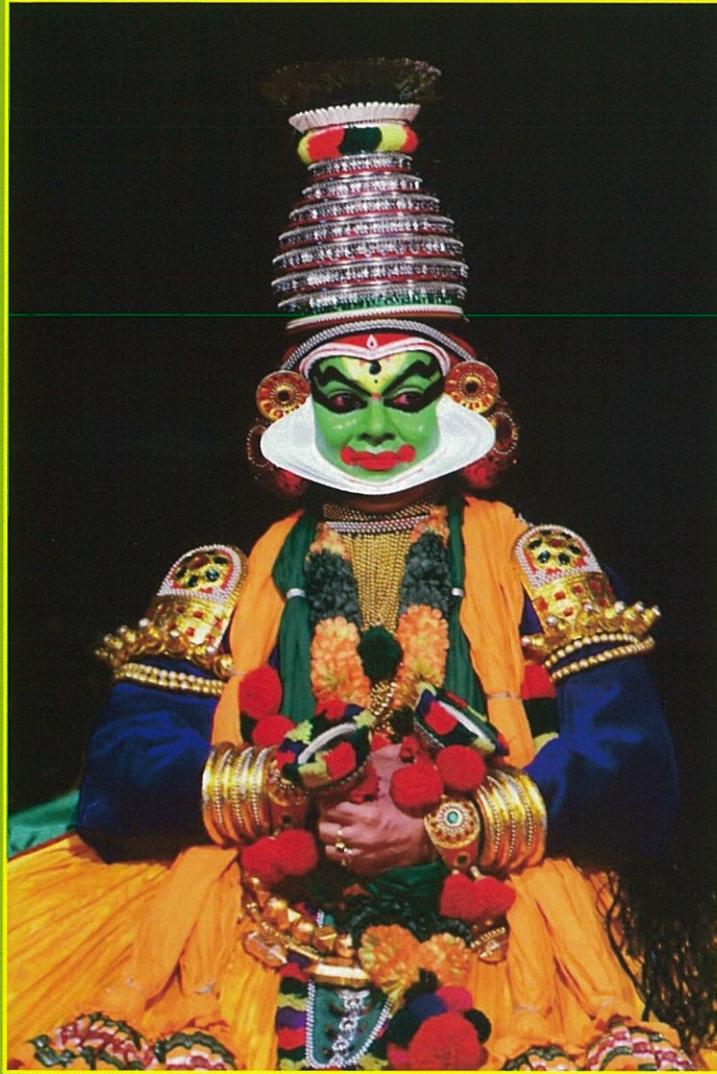
F a x : 0259-63-3300



世界文化遺産登録佐渡島の金山
インド政府派遣祝賀舞踊公演



カタカリ舞踊劇 プルリア・チョウ仮面舞踊



インド最南端ケーララ州の舞踊劇カタカリは、インドの四大古典舞踊の一つとして、また世界三大化粧劇の一つとして、日本の歌舞伎と同様に世界で知られています。「カタ」は物語、「カリ」は舞踊を表す言葉です。カタカリは神話等の物語が表現され、ドラマの構成をとっています。台詞や物語の展開は歌によって表現されます。

プルリア・チョウは西ベンガル州プルリア地方で上演されています。仮面舞踊チョウはパリ・カンダ（パリは守護、カンダは剣の意）と呼ばれるマーシャル・アート（武芸）から生まれたと言われ、様式化されたステップや身体の動きには武術の基本が見て取れます。チョウとは仮面という意味があります。

総勢16名による公演

2024年9月21日(土) 開場18:00／開演18:30

会場：赤泊総合文化会館3階（大ホール）

入場無料（おひねりをたのむっちゃ！）

※会場の都合により入場者は200名としますのでご了承ください。

主催 赤泊演劇研究会 共催 インド文化交流評議会（インド政府ICCR）／佐渡市／NPO法人日印交流を盛り上げる会
後援 インド大使館／佐渡市教育委員会／赤泊地区公民館

インド政府ICCR派遣カタカリ Dr Haripriya Nambudiri & Troupe



インド最南端ケーララ州の舞踊劇カタカリは、インドの四大古典舞踊の一つとして、また世界三大化粧劇の一つとして世界各国に紹介されています。歌舞伎や京劇にも似た仮面のような演者の隈取りは半日もかかる施されます。

インド政府ICCR派遣プルリア・チョウ

Bhagabandas Kumar & Troupe, Matkuma Shiva Durga Chhou Academy



力強く陶酔させられるような打楽器の音楽に鼓舞されるチョウが踊りを繰り広げていきます。使われる楽器は、ドール(dhol)、ダムシャ(dhumsa、太太鼓)、ペプティ(pepti、シャーナイに似たリード付きの管楽器)とジャーンジ(janjh)などです。

プルリア・チョウは西ベンガル州プルリア地方で演じられています。仮面舞踊チョウはパリ・カンダ(パリは守護、カンダは剣の意)と呼ばれるマーシャル・アートから生まれたと言われ、様式化されたステップや身体の動きには武術の基本が見て取れます。

チョウとは仮面という意味があり、今まで伝承してきた3つのチョウ(プルリア、セライケラ、マユルバニ)のうち、2つ(セライケラとプルリア)が仮面舞踊です。

仮面は粘土で原型を作り、その上に紙と布を粘土で幾重にも貼り付けて形を整え、乾燥させた後着色して仕上げます。仮面には、ごてごてした飾りは一切つけない。踊り手は、顔をぴったり覆った仮面の、鼻の位置に開けられた小さな二個の穴で呼吸し、両目のところに開いている二個の小さな穴を通してのみ外界と接します。踊り手の視界は極度に限定され、容易に非日常の世界へと現実が変わって、神と一体の世界が出現します。



上空より眺めたミティラー美術館



ミティラー美術館展示室

新潟県十日町市の中にあるミティラー美術館は、1970年代を中心に活動した前衛音楽グループ「タージ・マハル旅行団」のメンバーである長谷川時夫氏が設置・運営する私設美術館です。1982年に廃校の小学校を利用して開館した同館は、ミティラー地方で3000年にわたって母から娘へと伝承されてきた壁画「ミティラー画」、先住民族であるワルリー族が描く「ワルリー画」、

ゴンド族に伝わる「ゴンド画」のほか、テラコッタなど多数の作品を収蔵しています。また、同館はインドからアーティストを招聘した滞在制作を積極的に続けており、そこで生まれた新しいフォークアートも注目すべき作品群です。これら多彩なコレクションの質と量は世界に類がないものとして、インド政府をはじめ国内外から高く評価されています。



website



ボーウー・デーヴィー《太陽神スリヤ》
Bauwa Dev《Sun God-Surya》
1992年/162×366cm



ジヴヤ・ソーマ・マーシュ《タルパーダンス》
Jiyva Soma Mashe《Tarpa Dance》
1996年/185×372cm